

## 第4章 将来推計

基準年度である2019（令和元）年度から目標年度である2030（令和12）年度までの本市の人口と、現在の取組状況で推移することを前提としたごみ排出量について推計した。

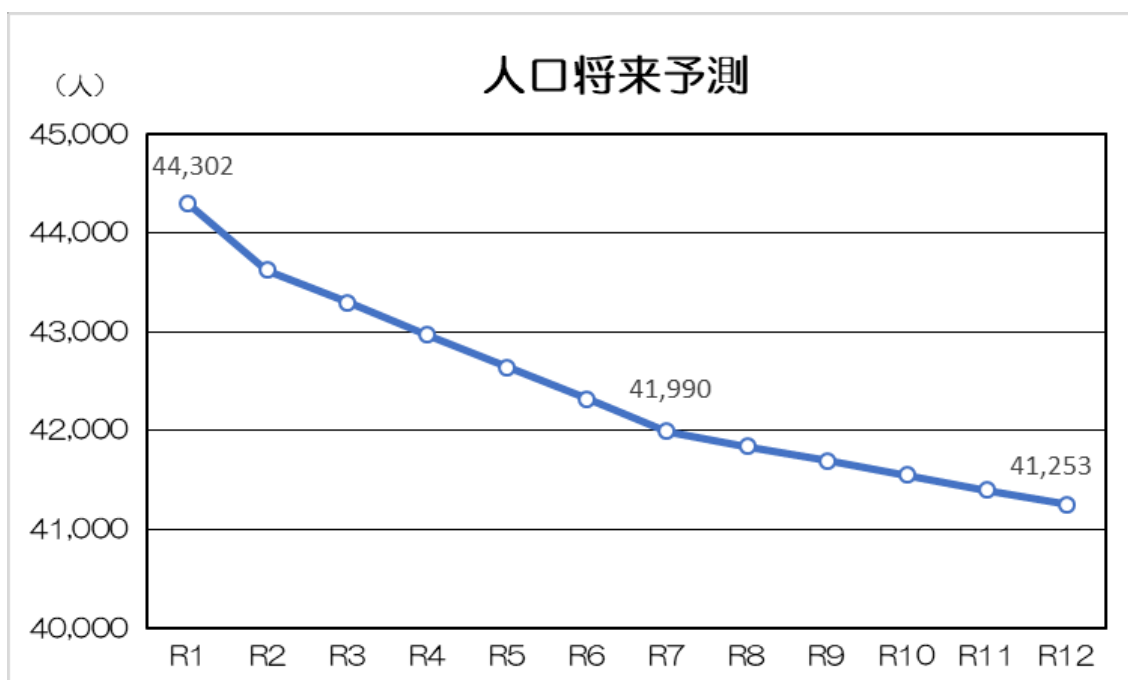
### 1) 将来人口の推計

将来人口の推計は、上位計画である第6次加西市総合計画との整合性を図るため、総合計画の将来展望人口の値を用いる。

本市における人口の将来予測は下表のとおりである。

人口の将来予測（現状の推移による）

	基準年度 (2019)	中間目標年度 (2025)	目標年度 (2030)
人口	44,302 人	41,990 人	41,253 人



## 2) ごみ排出量の将来推計

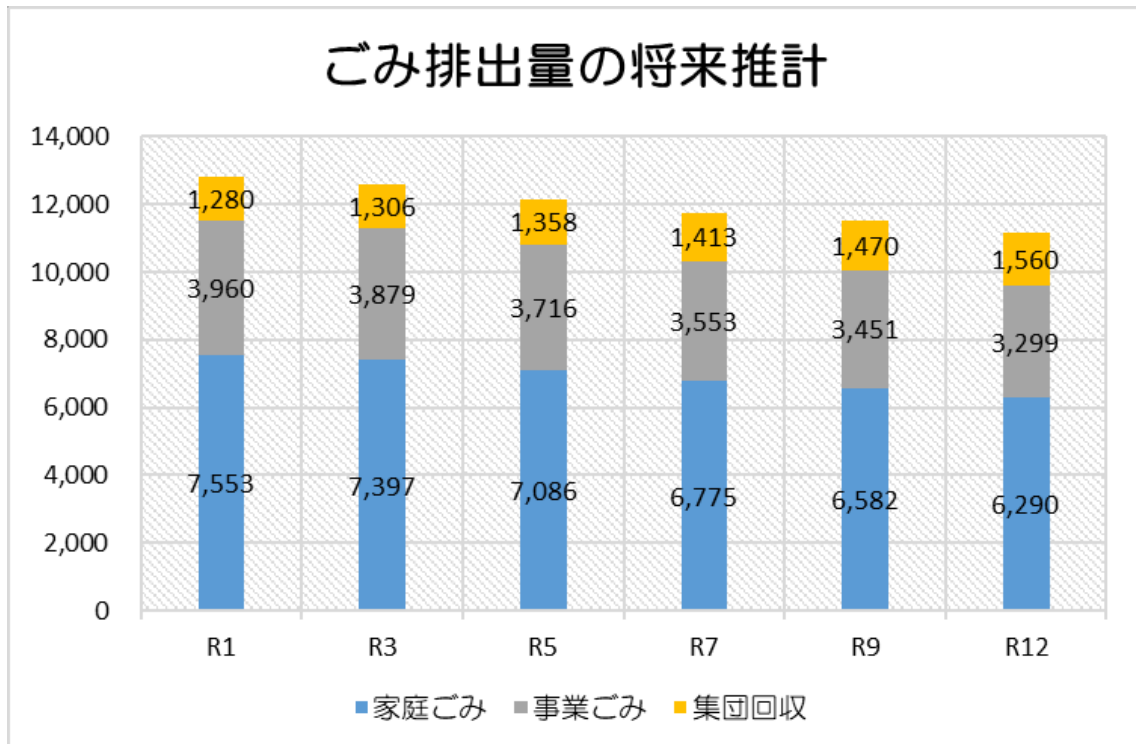
平成 26 年度から平成 31 年度までの種類別ごみ排出量の実績に基づき、将来的に新たな取り組みを行わず、現状の取組のまま推移した場合のごみ排出量を推計する。

ごみ発生量全体としては緩やかに減少傾向が継続すると考え、目標年度である 2030（令和 12）年度のごみ排出量は 11,149 t となり、基準年度である 2019（令和元）年度と比較すると 1,644 t、12.9%減少する予測とした。

ごみ排出量の将来推計（現状推移による）

（単位：t）

	基準年度 (2019)	中間目標年度 (2025)	目標年度 (2030)
家庭系ごみ	7,553	6,775	6,290
事業系ごみ	3,960	3,553	3,299
集団回収	1,280	1,413	1,560
総排出量	12,793	11,741	11,149



### 3) ごみ処理量の将来推計

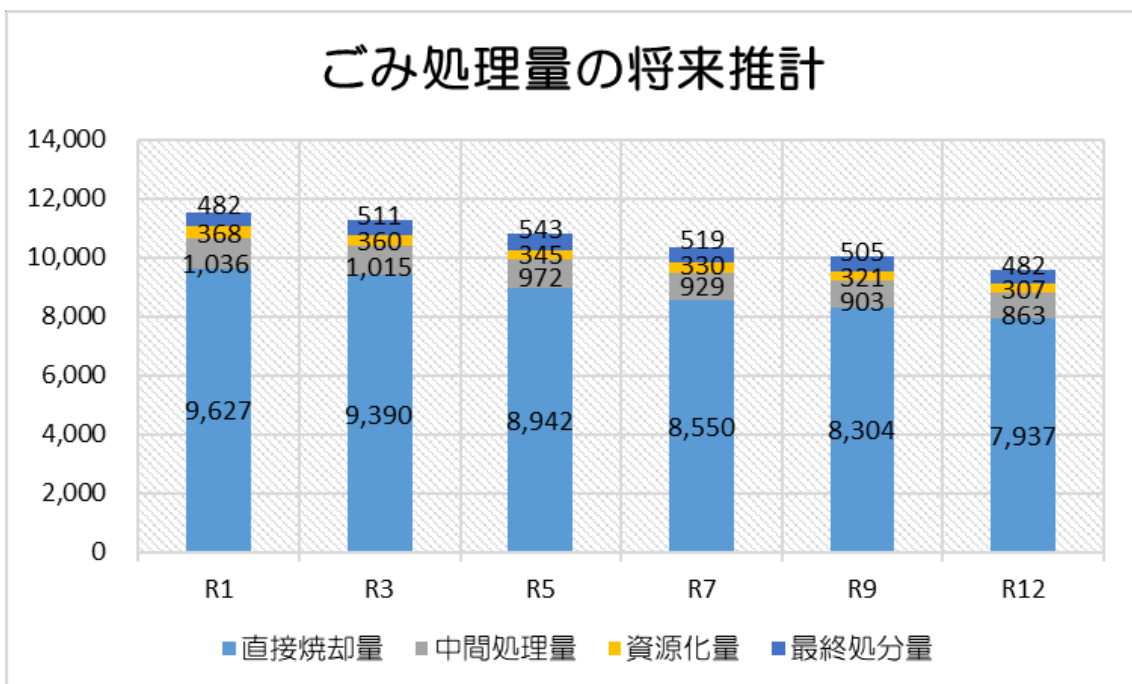
ごみ排出量の推計と同様に、現状の取組のまま推移した場合に発生するごみの処理量について推計する。ごみ排出量が減少する予測であることを踏まえ、ごみの処理量についても減少傾向で推移すると予測される。

目標年度である2030（令和12）年度のごみ処理量は9,589 tとなり、基準年度である2019（令和元）年度の11,513 tと比較し1,924 t、16.7%減少する予測とした。

ごみ処理量の将来推計（現状推移による）

（単位：t）

	基準年度 (2019)	中間目標年度 (2025)	目標年度 (2030)
直接焼却量	9,627	8,550	7,937
中間処理量	1,036	929	863
資源化量	368	330	307
最終処分量	482	519	482
ごみ処理量	11,513	10,328	9,589



#### 4) 最終処分量の将来推計

ごみ排出量の推計と同様に、現状の取組のまま推移した場合に発生する最終処分量について推計する。ごみ処理量の減少に伴い、焼却灰は減少すると考えられるが、直接埋立量については、現状と同程度で推移するとみられる。

目標年度である2030（令和12）年度最終処分量は1,599 tとなり、基準年度である2019（令和元）年度の1,662 tと比較し63 t、3.8%減少する予測とした。

最終処分量の将来推計

（単位：t）

	基準年度 (2019)	中間目標年度 (2025)	目標年度 (2030)
自己処分量	482	519	482
フェニックス最終処分場	1,180	1,152	1,117
最終処分量計	1,662	1,671	1,599

